第65期公益社団法人有隣厚生会事業計画

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

当法人は、医療、保健、福祉、教育その他、より良い社会の形成に関する事業を総合的に一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与することを目的に平成26年4月1日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人になれるようにと医療を中心に事業を展開しています。

昭和30年、御殿場市に活動拠点を移し、地域の公益のため医療保健活動の一つとして富士病院を開設運営しました。また、地域医療の継続のために富士小山病院、東部病院を継承、在宅医療の推進策として地域初の訪問看護ステーションごてんばを開設、続いて疾患を持つ認知症患者のためのグループホームごてんばも開設しました。更に平成29年3月に共立産婦人科医院を加え、これらの事業が一体となって地域貢献を果たしています。

また、2025年には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となります。医療と介護の両方を必要とする方が増加する中、地域包括ケアシステムを見据えて、平成30年4月からは、東部病院に23床の包括ケア病床をオープンさせ、行政との協力体制を推し進めていきます。

当法人の3病院・1診療所は、多くの診療科の疾病治療等を行っています。3病院は共に二次救急を中心に救急医療等の政策的医療、専門医療や健診事業も実施します。法人全体で在宅医療や高齢者介護、医療従事者育成支援など、医療・介護等の全般に携わり、高度な技術を持って多様な事業を実施します。結果として当地域における地域医療の確保や住民の健康維持・増進のため不可欠な存在となっております。1診療所は、地域の安心安全な出産、子育ての一端を担い、3病院同様にスタッフ体制を整備し、当地域には唯一のお産のできる産科として不可欠な存在であります。

法人の運営面では、平成29年度も28年度と同様に大きな赤字を出すことが確実です。平成30年4月の診療報酬改訂で富士病院が行っている看護体制の7:1急性期病院は、厚生労働省の病床数削減の対象となり、より重症患者を受け入れ、在院日数を短縮、入院患者の早期退院を促進し、病床稼働率を常に意識した運営が強いられることとなります。

そして、3病院・1診療所の各々の機能をフルに生かし、患者の入退院の垣根を取り外し、一つの病院のごとく連携の徹底で、地域住民に各施設の機能の周知を図り、稼働率のアップを図ります。

当法人は、今年度も今までの公益活動を継続し、発展させ、住民の利益になることを推進し、一層の御殿場市・小山町の医療・介護・出産の拠点としての機能・役割を果たしていく所存です。

法人の発展と安定運営を進めるため、今年度は法人への寄付制度を研究し、寄付の募集等を検討してまいります。

また、富士小山病院、東部病院につきましては、平成元年建設の施設であり、築後29年の経過となり、現在の施設基準に合わないことや老朽化も著しいため、建て替えの必要度

が高くなっております。今後決算において余剰が生じた場合は、来たるべき建設に備えて資金の積み立てをしてまいりたいと考えております。

公益事業の内訳

1. 病院・診療所の運営
2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

1. 病院・診療所の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期医療、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療科の開設運営、その他これらに付随または関連する事業等を一体的に実施しております。

現在、急性期疾患に対応する一般病床を持つ富士病院、一般病床及び介護療養病床を持つ富士小山病院、一般病床及び腎臓病(透析)センター・シャント手術などの機能に加え、地域初となる包括ケア病床の運営を手掛ける東部病院、さらに御殿場・小山地域で唯一の共立産婦人科医院を加え、地域の医療を支えています。

富士病院は診療報酬の改定により、退院促進が益々重要になります。看護・医療必要度の該当する患者が30%以上必要で、1%でも低ければ現在の7:1基準の保険点数は得られず、運営は厳しいものになります。今まで以上に救急と重症患者を受け入れ、手術等実施し、急性期病院として特化していく必要があります。そのためには、退院を促進し、空ベッドを作るため適切な時期に病態に合わせてスムーズに富士小山病院と東部病院に転院できるようにしなければなりません。各病院が各々の機能を上げ、法人の中で医療が完結することで、患者様のにとっても大きなメリットになります。

また精神科疾患の対応については、医療法人社団沙羅 東富士病院(駿東郡小山町須走)と緊密な関係の中で行ってまいります。

健診事業は、御殿場市、小山町の住民健診(特定健診、乳がん、子宮ガン等)を中心に、最近の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市町の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与していきます。また、平成30年度から胃部レントゲン検査は内視鏡とどちらかの選択とする検討がされておりますが、3病院では内視鏡医師を確保しており、症例増加を期待します。人間ドックを充実させ、住民の健康意識の向上と啓発活動も積極的に取り組んでいきます。

1-1 富士病院の運営

一般外来は、地域内外の多くの患者に対し、地域の要望に応じて開設しており、その充実と継続に務め、中心となる内科一般は親切丁寧な診療を継続していきます。また専門外来も充実させ、開業医等からの紹介の受入と診察後紹介元の開業医に情報をお返しすることを更にスムーズに行えるよう各病院ともに地域医療連携室の役割を徹底させます。予算の概要は外来患者数一日平均 511 人、日当点1, 423 点を予想。健診事業としては一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科検診、乳がん検診(今年度より誕生日実施)、小児検診等市町の行う健診事業などのほか、出張健診も行うことで住民ニーズに対応して幅広く地域の健康管理に寄与します。さらに、検査結果に基づいての診断、健康管理及び予防等の相談にあたり、包括的な対応をし地域住民の健康管理に寄与することを目指します。又、今まで外来で診療していた2次健診の診察を健診科で専門医に診察できるシステムとすることで、一次健診から一貫した追跡を可能にし、又待ち時間解消に繋がるので、導入する予定です。

救急医療については、地域の夜間や祭日における二次救急医療を引き続きできる限り受け持ち、広域救急の協力はドクターバンク制度を利用して消化器疾患の受入体制の強化を図ります。退院促進が進まず、入院が長期化し、救急・重症患者の受け入れが出来ない事態にならないように努めることが重要です。また小児救急においては、医師の確保で救急センターからの受け入れも改善し、地域の小児救急の充実にも寄与できるものと期待しております。

入院については、看護師不足も僅かですが徐々に改善してきましたが、患者増加に追いつかない状況で引き続き募集を継続します。3病棟の7:1の看護師配置の維持と充実した医療提供体制作りに取り組めます。またワークライフバランス事業を通じて取り組んできた労働環境の整備、スタッフの勤労意欲の改善、教育環境の充実等により離職率を改善し、働きやすい、働いてよかったと思える病院づくりを継続します。そして今年度中に何としてもハイケアユニットを復活させ、救急患者・重症患者の受け入れを強化し救命率を上げ、市民の期待に応じていきます。

H29年度実施した電子カルテ化は、導入も無事終わり、今後は有効活用の時期となります。並行して各診察室に回している紙カルテは6月を目途にほぼ終了させ、医事業務の効率化を図ります。

また地域包括ケアシステムに沿う事業として、現在4名の医師が在宅訪問を担当しており、在宅療養支援病院の認定を受けるように展開したい。

以上により入院日当点は6,270点、入院患者は130名を目指します。

専門領域として

① 循環器医療

24時間365日体制で専門医を配置し、緊急の心筋梗塞等にカテーテル治療などの対応が何時でも出きるスタッフ体制を整え、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を果たしていきます。また、不整脈疾患のアブレーション治療の増加も期待できます。また血管連続撮影室の2室の完備により、緊急カテーテ

ル検査が重なる場合もスムーズな対応が可能になったが、スタッフ不足があり、マンパワーの教育と充実の課題で残っており、今期スタッフ教育と育成をカテ室の大きな課題としております。

また、今期心臓リハビリテーションを開始し、救急から在宅までのスムーズな流れの医療を提供します。

② 小児科

この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機 24 時間 365 日体制で地域小児医療を守ります。医師の充実もあり、御殿場市救急センターからの受け入れ体制を強化していきます。

③ 吸器内科

昭和大学呼吸器科専門医が毎週月曜日の勤務体制で臨みます。常勤の内科医師で呼吸器のスキルの有る先生の募集を継続します。

④ 糖尿病内科

日本糖尿病学会認定教育施設として、チームで糖尿病指導にあたり、その管理に傾注する一方で、糖尿病教室、学会、研究会での発表の他ドクターズレストランなどのイベントを開催し、スタッフと患者様が同じ目線で療養指導に取り組んでいくとともに、糖尿病の啓発活動を行ってきます。御殿場地域糖尿病研究会を発足させ、連携強化を図ります。常勤医師2名と非常勤医師 2 名体制に加え、聖マリアンナ医科大学から毎週木曜日派遣を得、患者増加に対応していきます。また、糖尿病療養指導士の育成事業も継続していきます。

⑤ 消化器内科・消化器外科・大腸肛門科

当法人では、昼間を中心に吐下血をはじめとする消化器疾患に対応する救急医療を実施していきます。また、内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施します。

また抗がん剤による化学療養も整備された安らぐ環境の中で安全に施行していきます。

また市の胃部検診が内視鏡とレントゲンの選択制となる今期、内視鏡増加に対応できるよう体制としました。

肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施していきます。

⑥ 乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓発活動などを実施していきます。

H28年4月から勤務の週3日の非常勤医師も健診に加わり増加する患者の対応を行います。

⑦ 整形外科

脊椎・腰椎の手術症例が急増し、骨折、膝関節手術の増加も期待できます。リハ

ビリの充実などもあり、MRIの活用も進んでいます。PT、OT、STの増員を計画、グループ内の応援にも応えられるように教育していきます。常勤3名と順天堂静岡病院、県立足柄上病院からの派遣の先生方を含め、非常勤医師4名の体制でリハビリを活用して、患者の機能回復を目指します。

⑧ 泌尿器科

当院は、当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施しています。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破碎治療患者も多くいます。

⑨ 眼科

当地域で、眼科の入院の対応ができるのは、当法人の2病院のみであり、白内障以外にも最新のOCTにより、難しい症例も撮影でき、幅広い診療に役立てています。また、レーザー光凝固装置を最新のものに更新し、パターン照射により痛みなく効果的な治療を実施し、OCTとあわせ緑内障の分野で最先端治療ができる施設となりました。

⑩ 脳神経外科

頭痛・めまい・痺れ・物忘れ外来など徐々に地域に浸透し、外来患者も増加、国保脳ドック検診も増え、患者の脳の管理を担う。高齢者の管理も含め、健診から重症まで幅広く担っていきます。また手術についても、必要な患者様の扱うケースが増加傾向で、院内で手術ができるよう準備し、開始していきます。さらに、OTを3名体制として、脳血管リハビリ①を取得する予定です。

⑪ 皮膚科

アトピー性皮膚炎から皮膚潰瘍、悪性新生物の早期発見まで広範囲の治療・手術を担当しています。外来患者も多い状況です。また昨年と続いた地域老人施設の疥癬対応指導・診察を今年度も対応していきます。

⑫ 麻酔科・ペインクリニック

常勤医師2名と非常勤医師1名の体制で各種手術に対応しています。

また麻酔科指導医による本格的なペイン外来も、赤外線レーザー治療器を活用して、難治性疼痛の緩和に利用者増加を見込みます。

引き続き、静岡県東部地域で研修施設がなく、困っている救急救命士のビデオ口頭鏡及び挿管の研修を今年度も継続します。

⑬ 婦人科

子宮ガン検診が平成27年4月から誕生月検査となり、スタッフの負担は緩和されましたが、婦人科医が不足し、共立産婦人科からの派遣を受けて週2日の診療をしてきました。

平成29年4月より、共立産婦人科の法人加入により、聖マリアンナ医大等の協力で常勤医師の確保などが実現し、外来機能を上げることができる環境となりました。

婦人科のドック、健診にも力を入れ、がんの予防活動にも積極的に貢献してい

きます。

1-2 富士小山病院

今年度は、介護報酬・診療報酬の同時改定となります。当院の現状に関しては、報酬では大きく変わりませんが、地域医療構想と地域包括ケアシステムの構築を推し進めるためのスタートの改定となっており、今後6年間において、当院が、地域における医療介護の機能を決定しなければなりません。とりわけ、当院の介護療養病棟は、6年間の経過措置となっておりますが、現実には、2年以内に介護医療院か医療療養病棟に決定しなければなりません。法人内、地域の位置づけを明確にし、恒久的に継続して運営できるよう、転換の準備を行っていきます。

病院の安定継続的運営を行っていくには、第一に職員の確保が必要です。そのために職場の環境整備は重要な要因となります。今年度は、昨年度2月に導入した、電子カルテ及びパックスの本格運用を開始し、調剤システム・健診システムの導入を行います。そして、カンファレンスルームと更衣室の新棟が竣工となりますので、これに伴って新棟に移動による院内の空きスペースの有効活用を行っていきます。以上により、職員の負担軽減、就労環境の整備等、医療従事者の病院を選ぶ環境要因のアップを図ります。また、建物が開業から30年が経過し老朽化により小規模のメンテナンスだけでは、改善できない状態になりました。より長く運営していくため、昨年度、建物すべての水平面の防水工事を行ないましたが、今年度は、垂直面すべてのメンテナンスを行います。

小山町の人口は、平成29年2月1日現在18,915人と30年前に比べ約20パーセント減少傾向となっておりますが、2年後には、オリンピックの会場地、新東名の開通及びETC、足柄サービスエリアのETC、大規模工業団地、観光施設のオープン等により将来的に人口減少の解消が見込まれます。現状当院も外来の減少により収益の悪化が堅調になってきましたが、将来へつないでいく改善として、昨年度全国健康保険協会の実施機関の認定を受け4月よりスタートします。これに付随して、各パラメディカルにて作成した健診オプション等も行っていく予定です。また、小山町からの委託検診として、内視鏡による胃がん検診もスタートします。加えて、透析に関して、患者様のニーズに答えるために、夜間透析を計画していきます。

1-3 東部病院

2025年の超高齢化社会まで残すところ7年に迫り、厚生労働省が取り組んでいる地域医療構想に基づき自院病棟の再編成を進めています。地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携に適切に対応し、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を目指してきました。

2階病棟23床を地域包括ケア病床として編成し、平成30年4月1日より開設

します。自院、あるいは富士病院からのポストアキュート入院のみでは、病床稼働率を上げるには困難であり、サブアキュート入院を受け入れていきながらコントロールしていく必要があります。転換へのメリットとしては、1床あたり1日5,000円～8,000円のアップが見込まれ、20床で年間およそ6,000万円の増収が考えられます。

また、東部病院の中心的医療でもある透析医療も強化していくため、本年度中には、透析棟を増改築し、透析病床を22床増床し49床に拡大する予定です。新規透析導入の患者を積極的に受け入れ、安定した収入確保を目指していきます。

医療職員の確保は最重要であると考えており、職場環境や就業条件の改善に努めてまいります。職員には目標管理制度の徹底、院内、院外研修会への参加率を引き上げ、また、医療安全体制の強化に伴い危険予知訓練の実施、分析により職員の成長を図ってまいります。

1-4 共立産婦人科医院

平成29年3月より有隣厚生会に参画しました共立産婦人科医院は、従前より不足していた産婦人科医師を平成28年4月より富士小山病院の牧野院長の取り計らいにより、聖マリアンナ医科大学から週2回の日当直医師の派遣が実現しました。加えて前期より公益社団法人の採用であればと常勤医師を県立足柄上病院から招聘し、医師については体制が整いました。更に組織力を構築し、助産師・看護師・臨床検査技師・看護助手の採用と教育に取り組み、今までよりも、質の高い医療を目指し、サービスの行き届いた地域に貢献する産婦人科医院となるよう職員一同邁進していきます。

分娩については、地域の出生者数が減少傾向ですが、30年度についてはお産330件、帝王切開50件を目指しております。

外来については診療内容の充実とサービス向上で現状よりも増加を見込んでおります。

支出については、給与費以外は28年度の実績に基づいて試算しました。

1-5 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からも医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などに出来る限り応え、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めます。

- ・御殿場市救急医療センターへの一次救急医療代行(年3回)
- ・救急センターの当直・小児科担当・放射線技師派遣
- ・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
- ・災害時ボランティア活動、募金活動

1-6 医療従事者による調査・資料収集・研究学会発表

社会的なニーズの高い医療、看護、公衆衛生等の分野における課題について、調査

研究を行い、その成果を発表します。小児科では静岡県感染症発生動向調査を今年度も継続します。さらに富士病院は年報にて各科医療の成果・報告と地域連携実態調査、入院、外来各種調査を一般に広報していきます。

また、CKD 対策の継続事業として、御殿場市、小山町、透析医療機関の協力で、慢性腎不全患者の透析への移行状況を地域別、原疾患別等調査・研究します。

さらに医師会、行政とも地域ぐるみで対策会議を開催し、慢性腎不全患者の透析への移行を減少させるための活動を行うことで、地域の慢性腎臓病の予防と診療向上に役立たいと考えます。

新しい課題を見つけ研究し、またノロウイルス感染に対する対応など経験からの対策を発表する等、今後も各分野において調査研究を通じて医学の向上に努めます。

1-7 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めています。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しするなど積極的に取り組みます。

共同利用の機器は、内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図など広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献しています。

またICT事業の一貫として、近隣の病院、開業医、施設と連携して連携カードによりどこからいつでも当院のサーバーに入り、必要な患者様の診療情報を閲覧できるシステムを開発、設置しました。このことで紹介した患者様のその後の様態を紹介元から検索でき、その便利さから連携の要として期待し、運用を開始しております。いろいろな課題も見えてきたため、修正し、今期はより多くの施設で活用してもらえようにします。

2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

医師や看護師が不足している当地域では、患者急変時に往診を行う医療機関の確保や、訪問看護ステーションが 24 時間365日緊急時の体制を維持することは大変難しい状況です。この現状の中で、当ステーションは、富士病院を中心にした3病院によるフォローアップ体制により継続的な運営を行ない、地域の要の役割を認識し、地域包括ケアの中で多職種と連携を取りながら地域の在宅医療を支えています。

訪問看護の利用者数、訪問回数ともにわずかな減少がありましたが、小児から高齢者、医療処置のある利用者など、今まで通り積極的に受け入れていきます。

【平成30年度予想】

- ・利用者数 100 名
- ・指示書依頼医療機関 30 施設
- ・訪問年間回数 7,000 回
- ・夜間休日相談回数年間 750 回

- ・夜間休日出動回数 350 回

また、併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格を持つ3名の職員が利用者の要望に沿ってケアプランを作成し、適切な介護サービスの提供をしていく。

【平成30年度予想】

- ・ケアプラン作成数 36 例

3. 高齢者のグループホームの運営

当法人が運営する高齢者のグループホームは、認知症で重度の疾病のある患者または生活保護受給者をはじめとする生活困窮者で、行き場に困っている方々を積極的かつ優先的に受け入れている地域密着型施設であります。

入所者は、肺気腫、ペースメーカー埋め込み、心筋梗塞、尿道バルーン留置などの疾患を持った上に昼夜の行動が逆転するなど、いずれも他の介護施設では受入困難な方たちの受入に今後も力を入れていきます。

当施設の入所者は、ほとんどが富士病院での診療が必要であり、併設する訪問看護ステーションからの健康管理や指導を受けながら、医師とも連携を行い、家族に代わってホーム職員による食事や生活の介助を受けています。いる。

【平成 30 年度予想】

昨年同様、御殿場市、小山町に相次いでオープンした介護施設の影響で、利用者は減ったものの、重症疾患を抱えた認知症施設として希望者が有る以上、継続していく方針です。今期は、疾患の重症化や在宅支援等により利用者数平均を 8.6 としました。

- ・入所予想 8.6 人(定員は 9 人)
- ・要介護度 5 は 1 人、要介護度 4 は 2 人、要介護度 3 は 2.6 人、介護度 2 は 2 人、要介護度 1 は 1 人

(認知症に加えて身体の介護度も大変高い特徴がある。)

- ・運営推進会議 6 回
- ・お花見などの催し年 32 回
- ・便りの発行 6 回

4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4-1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、他が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めます。

4-2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを実施します。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等を、病院内や市民交流センター等を会場として、無料で行っています。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行います。

【平成 30 年度予定】

- ・市民公開講座
- ・健康講座 2018 5月19日(土) 小山町総合文化会館 菜の花ホール
講演者 林 秀徳(当院医師)
演題 人生の最終ステップを考える
～人生の最後をどのように締めくくるか～
- ・第13回おやま健康フェスタ 6月16日(土) 小山町総合文化会館・体育館
ロコモ相談 チビッコナース撮影会
- ・糖尿病教室・健康講座
- ・認定看護師による公開講座

5. 医療人材の養成支援

5-1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援します。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献します。

特に、地元の御殿場医師会が運営する御殿場看護学校については、今期も多くを担当します。当院は同校の実習施設として、同校の基礎実習、領域別実習の多くを受入し、また、学校の講義においても当法人の医師、看護師等有資格者 28 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行っていきます。

【平成 30 年度予想】

- ・大学:昭和大学、東海大学、日本大学など
- 学部(職種) 医歯学部、薬学、看護学部、臨床検査、臨床工学技士、理学療法士、言語聴覚士、救命救急士、ホームヘルパー2級実習

5-2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣する予定です。

また認定看護師による公開講座を通じて地域の看護師のレベルアップを図ります。[年

5 回計画]

【平成 30 年度予想】

- ・医師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、等による講演

5-3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者をめざす生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行います。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5 職場体験実習」に参加する道を開いています。学校側の都合でしばらく休止していましたが、昨年より復活しております。

5-4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受入る予定である。

5-5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設に通っている人を対象とし、当法人の創案により地域の病院が連携して、奨学金貸与を実施している。御殿場市病院部会の奨学金制度の見直し、月額5万円とし、法人全体で新規学生を 10 名以上確保したいと考えます。

6. 病院、施設等における各種相談助言

6-1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク(他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク)を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行っています。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からの就職相談・社会資源活用の為の相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料に対応しています。

6-2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されることがないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。入院患者増加もあり、年々利用者は増加傾向にあります。

また、平成 12 年1月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料としています。